

# 年金未納の背景にある心理的要因

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1200455 杉崎 右二郎

## 第1章

### 1-1 概要

近年、少子高齢化は加速しており、これに伴って様々な議論が展開されている。特に老後資金が年金以外に 2,000 万円必要であると公表された、いわゆる「老後資金 2,000 万円問題」の議論に代表されるように、年金に対して特にネガティブな見解が増加している（田中、2019）。年金は日本国内に居住している 20 歳以上 60 歳未満の国民が被保険者となる。会社員や公務員、その配偶者以外の被保険者は、毎月自分で保険料を納める必要がある。会社員や公務員は年金保険料が給与から天引きされるため、未納者の多くは自営業や学生の第一号被保険者が占めると言われている。また未納者の世代別の割合は以下の図 1 のようになっている。

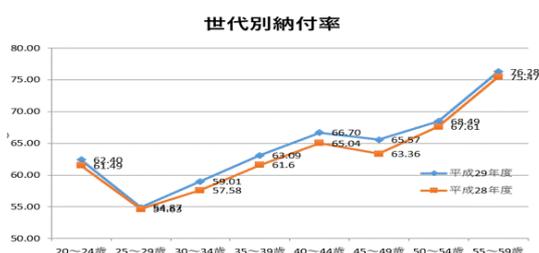


図1 国民年金の世代別未納率（納付率）の推移グラフ 年金のまなびば（2019）

これを見ると未納者の割合は、若年層ほど大きくなっており、年齢が上がるほど、小さくなっている。これには、年金制度に対する不信や、年金に対する知識不足、また、経済的に払うことができないなどの経済的要因が考えられる。本研究では、この中でも特に年金制度に対して抱く不信感に焦点を当て、これと年金未納行動との関係性を明らかにする。

### 1-2 目的

本研究は、社会保障費が増大する中で年金未納問題の解決は重要な課題であるとの考えから、未納という行動の背景にある要因を明らかにすることを目的としている。先に述べたように社会保障費は年々増大しており、その中でも年金の占める割合は非常に大きなものとなっている。年金は平均して老

後収入の7割弱を占めており、公的年金の総所得に対する割合が100%の世帯が54%となっており公的年金だけで生活する人が半数を超えている（厚生労働省、2016）。

このように年金は私たちの老後生活に欠かすことができない生活資金である。年金保険料未納は将来の年金の減額、あるいは受け取れなくなるような事態を招くだけでなく、病気やけがで働けなくなったときに受け取ることができる障害年金をも受け取れなくなる可能性を生じさせる。年金未納にはこのようなリスクがあるとともに、国民の義務であることから、この問題を解決することは重要であると考えられる。本研究では、近年、年金 2,000 万円問題を始めとした年金に対するネガティブな報道が増えている状況を踏まえ、年金に対する不信感が未納、未加入に繋がるのではないかとの問題意識を有している。

## 第2章

### 2-1 背景

少子高齢化に伴い、社会保障給付費は年々増加しており、その中でも年金の占める割合は非常に大きなものとなっている（図2）。



図2 社会保障費の推移等 内閣府ホームページより

社会保障費の推移等 内閣府ホームページ  
[https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/2030tf/281020/shiryu1\\_2.pdf](https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/2030tf/281020/shiryu1_2.pdf)



図3 国民年金の未納率（納付率）の推移グラフ 年金のまなびば（2019）より

また年金保険料納付率はここ 6 年連続で増加しているが、長期的な視点で見ると、大きく下降している（図 3）。

## 2-2 先行研究

前述の通り社会保障費の増大に加え、若者世代の未納が大きな問題となっている。本節では、未納に関する先行研究についてレビューする。

佐々木(2012)は、年金未納問題と年金教育に焦点を当てており、年金制度に対する不信感は未納行動に影響しないことを示している。すなわち未納行動の要因は、近視眼性や、相互扶助意識の低さなど、制度側の要因ではなく、個人サイドの要因が大きいことが示されている。この研究では、経済、経営、商学部の社会科学系の大学生を対象にアンケート調査を行い、ロジット分析により、制度要因や個人サイドの要因などの中でどのような要因が未納行動に影響を及ぼしているのかについて調査している。ここでの分析は、アンケート回答者である大学生が、国民年金に加入するかどうかの意思決定について、どのような要因が影響しているのかを分析するものである。ここでは年金の未納行動を生じさせる要因として、①加入損、②制度崩壊の不安強さ、③給付と負担の分かりにくさ、④給付目的以外への保険料の転用、及び⑤制度変更リスクへの抵抗感の 5 つを取り上げている。分析の結果、③の給付と負担の分かりにくさについてのみ、統計的に有意な相関を有することが示されているが、そのほかについては統計的に有意な相関を有しているとは言えず、年金に対する不信感は必ずしも未納に影響しない可能性があるとしている。次に個人サイドの要因に焦点を当てて調査した結果、近視眼的傾向は国民年金未加入行動と有意な相関を有することが示され、近視眼的傾向を持つ人ほど未納率が高くなることが示唆された。これらから当該先行研究は年金に対する不信のような制度要因よりも個人サイドの問題が大きいと結論している。

また盛林、久保（2018）による国民年金未納についての計量分析では、アンケート調査に基づくコンジョイント分析を用いて、流動性制約要因、予想死亡年齢要因、世代間不公平要因、雇用形態、年金知識不足、などの要因が未納率に与える影響を計量的に分析している。結果を見ると、国民年金未納の一番大きな要因は、所得であり、次に年金に対する不信であり、したがってこの 2 つが未納要因の 9 割を占めると

している。

以上の 2 つの先行研究の結果を見ると、研究者の間でも見解は分かれており、年金未納要因についてさらに調査する余地があると考えられる。その中でも、筆者は近年、年金に対する風当たりが強いことや、若者の納付率が低いことを踏まえ、年金に対する不信が、近視眼性よりも強く年金未納に係していると考えている。以上から年金不信と年金未納の関係性を明らかにすることが本研究の目的である。

## 2-3 仮説

これまでの議論から以下の仮説が導出される。

「年金に対する不信感は年金未納行動に影響する」

以下では年金に対する不信が年金未納に影響を及ぼしているのかについて、アンケート結果を分析することにより、当該仮説について実証的に分析する。

## 第 3 章 実証方法

本研究では、18 歳から 24 歳の大学生 76 人を対象にアンケート調査を実施した。年金未納行動について、先行研究で見解の分かれていた近視眼性と年金不信についての質問項目、また、未納行動を測定する質問項目、またこれらに加えて、性別、両親の職業、祖父母との同居等の質問項目も設けた。

近視眼性を図る質問は、①課題を一週間の期限の中で何日目に行うかという質問、②すぐに 10,000 円と、一年後の 12,000 円を選択させる質問、③、②で今すぐに 10,000 円を選んだ場合いくらなら一年後にお金を受け取ることを選ぶかを提示してもらった質問の 3 つである。

次に年金に対する不信を図る質問は、①自分が将来受給者となった時に、現在の年金額と同額を受け取ることができる可能性について問う質問、②現在の厚生年金加入の夫婦の平均的な受給額について記し、これに対する満足感を聞く質問、また③現在の年金負担額を自営業者などの第一号被保険者、会社員や公務員などの第二号被保険者ともに提示し、当該負担額に対する納得感を問う質問の 3 つである。

最後に未納行動を図る質問として①年金未納をしている人

に対してどう思うかを問う質問、②大卒の平均月給に対する年金保険料を提示し、それに対する抵抗感を問う質問、また③回答者に自分が自営業者であると仮定してもらい、売り上げ、ビジネスの拡大、仕入れ先への支払い、年金保険料や税金の支払いについて、優先順位をつけてもらう質問の3つを提示した。

この分析に用いる回帰モデルは以下のとおりである。

$$\begin{aligned}
 \text{PENSION UNPAID} &= a_0 + a_1(\text{HOMEWORK}) + a_2(\text{WHICH}) \\
 &+ a_3(\text{POSSIBILITY}) + a_4(\text{SATISFACTION}) \\
 &+ a_5(\text{ASSENT}) + a_6(\text{GENDER}) + a_7(\text{AGE}) \\
 &+ a_8(\text{GRANDPARENTS}) +
 \end{aligned}$$

各変数の定義は以下のとおりである。

**PENSION UNPAID** = 年金未納行動

**HOMEWORK** = 課題をいつやるか

**WHICH** = 今すぐに 10,000 円か一年後の 12,000 円どちらを選ぶか

**POSSIBILITY** = 将来今と同額の年金が受け取れる可能性

**SATISFACTION** = 現在の受給額に対する満足感

**ASSENT** = 現在の年金負担額に対する納得感

**GENDER** = 性別

**AGE** = 年齢

**GRANDPARENTS** = 祖父母と同居しているかどうか

## 第4章 結果

| 被説明変数:年金未納をしている人に対してどう思いますか |          |       |        |       |             |          |              |         |          |          |        |        |       |       |              |        |
|-----------------------------|----------|-------|--------|-------|-------------|----------|--------------|---------|----------|----------|--------|--------|-------|-------|--------------|--------|
| 説明変数                        | HOMEWORK |       | WHICH  |       | POSSIBILITY |          | SATISFACTION |         | ASSENT   |          | GENDER |        | AGE   |       | GRANDPARENTS |        |
|                             | 係数       | t値    | 係数     | t値    | 係数          | t値       | 係数           | t値      | 係数       | t値       | 係数     | t値     | 係数    | t値    | 係数           | t値     |
|                             | 0.270    | 1.624 | 1.E-04 | 0.316 | -0.0999     | -0.59089 | -0.22544     | -1.5684 | -0.17595 | -1.32145 | -0.656 | -0.964 | 0.149 | 0.587 | -0.508       | -0.614 |

| 被説明変数:現在の年金負担に対しての抵抗感 |          |       |          |         |             |            |              |             |          |              |          |         |       |       |              |            |
|-----------------------|----------|-------|----------|---------|-------------|------------|--------------|-------------|----------|--------------|----------|---------|-------|-------|--------------|------------|
| 説明変数                  | HOMEWORK |       | WHICH    |         | POSSIBILITY |            | SATISFACTION |             | ASSENT   |              | GENDER   |         | AGE   |       | GRANDPARENTS |            |
|                       | 係数       | t値    | 係数       | t値      | 係数          | t値         | 係数           | t値          | 係数       | t値           | 係数       | t値      | 係数    | t値    | 係数           | t値         |
|                       | 0.003    | 0.020 | -0.00024 | -0.6852 | -0.33377    | -1.94392 * | -0.29822     | -2.01823 ** | -0.65283 | -5.55295 *** | -0.84659 | -1.2014 | 0.228 | 0.867 | -1.4375      | -1.70053 * |

| 被説明変数:自営業者の場合の年金支払いの優先順位 |          |          |          |          |             |             |              |              |          |              |          |          |       |       |              |             |
|--------------------------|----------|----------|----------|----------|-------------|-------------|--------------|--------------|----------|--------------|----------|----------|-------|-------|--------------|-------------|
| 説明変数                     | HOMEWORK |          | WHICH    |          | POSSIBILITY |             | SATISFACTION |              | ASSENT   |              | GENDER   |          | AGE   |       | GRANDPARENTS |             |
|                          | 係数       | t値       | 係数       | t値       | 係数          | t値          | 係数           | t値           | 係数       | t値           | 係数       | t値       | 係数    | t値    | 係数           | t値          |
|                          | 0.131    | 2.150 ** | -9.2E-05 | -0.73035 | -0.13832    | -2.26964 ** | -0.17166     | -3.39599 *** | -0.13156 | -2.75712 *** | -0.08523 | -0.33478 | 0.024 | 0.255 | -0.72917     | -2.45781 ** |

\* p < 0.1 \*\* p < 0.05 \*\*\* p < 0.01

上の図は年金未納行動を被説明変数としたときの、回帰分析の結果であり、各説明変数との間の係数が統計的に有意であるかどうかを検証している。年金未納をしている人に対してどう思いますかという変数を被説明変数とした場合、各変数との間に統計的に有意な相関はなかった。次に、現在の年金に対しての抵抗感を被説明変数とした場合、SATISFACTION と負の相関（5%水準で有意）、POSSIBILITY および GRANDPARENTS と負の相関

（10%水準で有意）、また、ASSENT は負の相関（1%水準で有意）を有していることが示された。

次に、自営業者の場合の年金支払いの優先順位を被説明変数とした場合、HOMEWORK と正の関係（5%水準で有意）、POSSIBILITY および GRANDPARENTS と負の相関（5%水準で有意）、また SATISFACTION および ASSENT と負の相関（1%水準で有意）を有するという結果が示された。

これを見ると、今回の分析において近視眼性は、被説明変数を自営業者の場合の年金支払いの優先順位にしたときのみ、HOMEWORK との間で 5% の水準で統計的に有意である。よって、近視眼性が未納行動につながることは確かな証拠を得ることができない、言い換えると、近視眼性は未納行動につながらない可能性が示唆された。年金に対する不信は、多くの変数において、未納行動と負の相関を示しており、年金に対する納得感を持っている人ほど未納行動をとらないことがわかる。また、祖父母と同居している人ほど未納行動をとらないことも今回の結果から示唆された。

加えて、本研究の仮説検証とは関係はないが、未納行動の間でも関係がみられた。現在の年金負担に対しての抵抗感を被説明変数、自営業者の場合の年金支払いの優先順位を説明変数とした時に、正の相関（1%水準で有意）という結果を示し、年金支払いの優先順位を低くつけた人ほど抵抗感があることが分かった。被説明変数と説明変数を逆にした場合についても、係数は低いものの正の相関（1%水準で有意）という結果であった。

## 第 5 章 まとめ

本研究では、年金未納の要因について、先行研究で見解の分かれていた近視眼性と年金に対する不信について、アンケート調査を用いて検証した。

検証の結果、近視眼性が未納行動に影響を及ぼすという確かな証拠を得ることが出来なかった。一方で、年金に対する不信と未納行動の間では、いくつかの場合で負の相関がみられ、年金負担に対して満足感を持っている人ほど未納行動をとらないことが分かった。この結果は本研究の仮説を支持するものである。

また、仮説検証とは関係ないが、未納行動間の関係を検証してみたところ、被説明変数を現在の年金負担に対しての抵抗感、説明変数を自営業者の場合の年金支払いの優先順位とした場合、正の相関（1%水準で優位）を示し、優先順位が低い人ほど抵抗感があるという結果が示された。被説明変数

と、説明変数を逆にした場合についても係数は低いものの正の相関（1%水準で優位）を有していることが示された。

本研究では、近視眼性と年金未納行動との関係を明らかにすることはできなかった。一方で、年金不信を持っている人ほど支払いに抵抗感があること、祖父母と同居している人ほど未納行動をとりづらいこと、また、本研究では未納行動として検証した自営業者の場合の年金支払いの優先順位と現在の年金負担に対する抵抗感の間でも相関を有しているという結果が示された。

先行研究で見解の分かれていた近視眼性と年金に対する不信について結論を出すことが出来た点、また先行研究で検証されていなかった、祖父母と同居しているかどうかという変数と未納行動の間に相関を有するという結果を得ることが出来た点は本研究の貢献である。一方で、近視眼性を因る質問として時間割引率の問いと、課題をいつやるかという問いの 2 つしか挙げる事が出来なかったこと、サンプル数が 76 と少なかったこと、またアンケート対象が大学生のみであったことで年齢による未納行動の差が上手く検証できなかったことは今後の課題である。

## 第 6 章 参考文献

- ・佐々木一郎（2012）「年金未納問題と年金教育」日本評論社
- ・盛林亮介、久保英也（2018）「国民年金未納についての計量分析」日本保険学会関西部会報告 2018 巻 641 号  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsis/2018/641/2018\\_641\\_143/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsis/2018/641/2018_641_143/_pdf)
- ・暮石渉（2016）「国民年金の未加入、未納と社会のつながり」社会保障研究 2016、vol. 1, no. 2, pp. 308-322  
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/sh20212203.pdf>
- ・阿部由人（2017）「国民年金未納要因の計量分析」一橋大学国際、公共政策大学院公共経済プログラム、コンサルティングプロジェクト最終報告

<https://www.ipp.hit->

[u.ac.jp/consultingproject/2017/CP17Abe.pdf](https://www.ipp.hit-u.ac.jp/consultingproject/2017/CP17Abe.pdf)

・公益財団法人 生命保険文化センター

2019年11月20日

<https://www.jili.or.jp/lifeplan/lifeseconomy/oldage/21.html>

・厚生労働省 国民生活基礎調査 (2016)

2019年11月20日

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/03.pdf>

・大前研一が「年金2000万問題」を斬る (2019)

2020年2月4日

<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/1907/31/news015.html>

・社会保障給付の推移 内閣府ホームページ

2019年12月11日

<https://www5.cao.go.jp/keizai->

[shimon/kaigi/special/2030tf/281020/shiryu1\\_2.pdf](https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/2030tf/281020/shiryu1_2.pdf)

・年金のまなびば (2019) 国民年金未納推移のグラフ

2019年12月10日

<https://nenkin-manabiba.jp/national-pension-payment-ratio/>

・日本年金機構 公的年金の種類と加入する制度

2019年10月2日

<https://www.nenkin.go.jp/service/seidozenpan/shurui-seido/20140710.html>

・年金保険料を「未納」している人は、全体の「3%」

(2017) 2019年11月2日

<https://seniorguide.jp/article/1063629.html>

・遺族年金って未納だともらえないの？知っておくべき年金のあれこれ

(2020) 2019年11月19日

<https://syukatsulabo.jp/article/5888>

・過去に年金の未納期間があるときにはどうする？起きる問題とは？2019年11月20日

<https://allabout.co.jp/gm/gc/480276/>